

Golden Star

ゴールデンスターオートカルチ

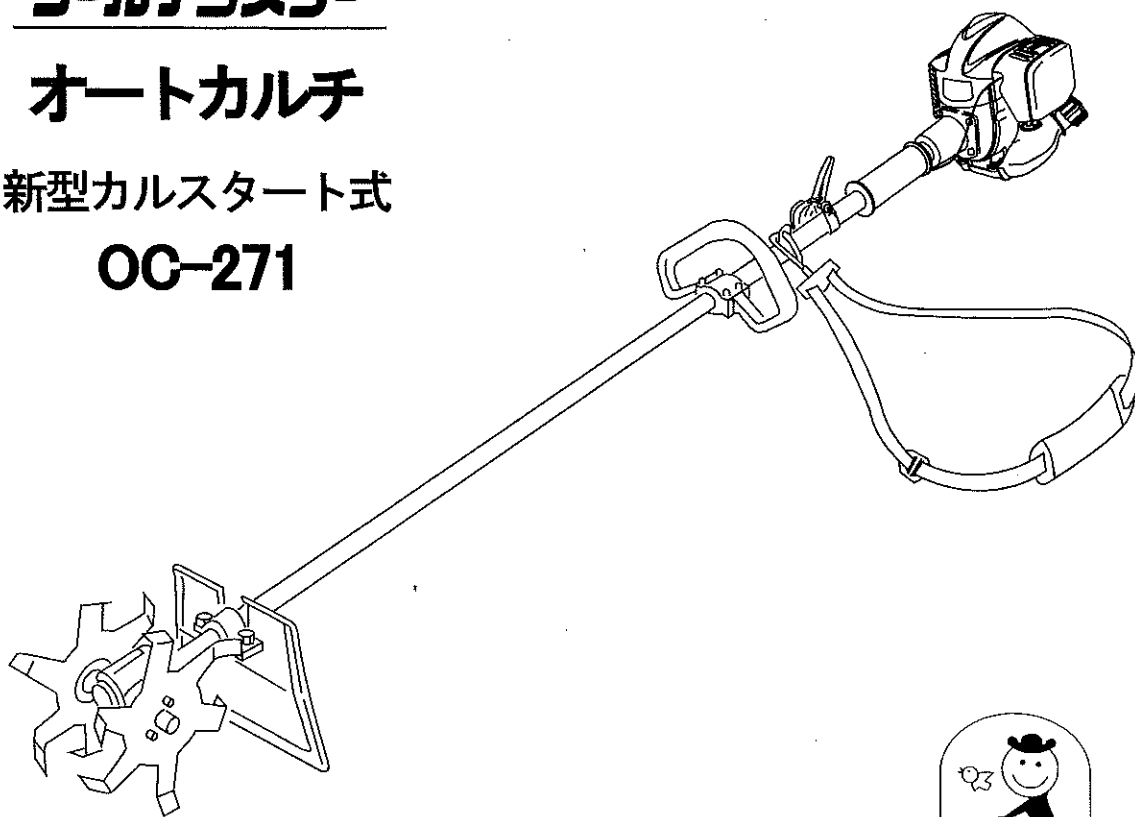
取扱説明書

ゴールデンスター

オートカルチ

新型カルスタート式

OC-271



お買い上げありがとうございました。


警告




- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管してください。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。

目 次

	項
1. 安全にお使いいただくために	1~2
2. 各部の名称及び危険・警告ラベル貼付位置	3
3. 仕様	3
4. 組立	4
1) ループハンドルの取り付け	4
2) プロテクターの取り付け	4
3) ブレードの取り付け	4
4) ハンガーとショルダーバンドの調整	4
5. エンジン始動前の点検	5
1) 燃料	5
2) 燃料混合	5
3) 燃料給油	5
4) 各部の締め付けの点検	5
6. エンジンの始動・停止	6
1) 始動	6
2) 停止	6
7. 作業操作方法	7
8. 点検・整備・調整	7
1) グリースの補給（ギヤーケース）	8
2) エアクリーナの点検・清掃	8
3) 点火プラグの清掃	8
4) 燃料フィルターの清掃	9
5) 耕うんブレードの点検・交換	9
6) 燃料パイプの交換	9
9. 長期間保管する場合	9
10. 本機の異常と対策	10

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

 危険	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重傷または死亡につながる重大事故</u> が発生する可能性があるとき
 警告	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重大な傷害を受ける事故</u> が発生する可能性があるとき
 注意	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>軽傷または中程度の傷害</u> を受け、 <u>財物の損壊等</u> につながる事故が発生する可能性があるとき

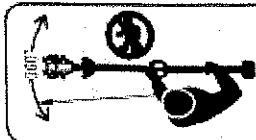
本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

▲ 危険

人が死亡または重大な傷害を負う場合がありますので、絶対にやめて下さい。

1. エンジン回転中に、刃部には手・足等身体を近づけないでください。

・回転するブレードで手・足等身体を切断、もしくは巻き込んで重大な人身事故をまねきます。



▲ 危険

- ・本機・修理時以外は必ずエンジン回転を停止して下さい。
- ・作業中は事故防止のため、必ずヘルメット・ゴーグル・長袖・長ズボン・長靴を着用して下さい。
- ・作業中は事故防止のため、必ず高圧電圧に近づかないで下さい。



2. 傾斜地での作業はしないで下さい。

・傾斜地での作業（使用）をされますと、本機がバランスを保つことができず、転倒し事故が発生する恐れがあります。

3. 耕うん作業以外には使用しないで下さい。

・本機は耕うん作業をするために設計・製造されています。

4. 未成年の方による操作は、保護者の監督下でない限りおやめ下さい。

▲ 警告

人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 作業中は、人や動物を近づけないで下さい。

・作業中は、作業員以外（人や動物）を作業現場周辺に近づけないで下さい。
飛散物で人身事故の恐れがあります。

2. 作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を取り除いて下さい。

3. 次の場合は、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、刃物が停止してから行って下さい。

- ・点検、修理及び部品交換時
- ・耕うんブレードの周囲に詰まった草や異物の除去時
- ・各部の調整時
- ・燃料補給時（エンジンが冷えてから行う）

4. 換気の悪い場所ではエンジンを運転しないで下さい。

・有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

5. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに手袋、防塵メガネ・耳栓をつけ、足下の保護のため安全靴を履いて下さい。

6. 長袖、長ズボンの作業服を着用して下さい。

但し、袖、すそのだぶついたものは着用しないで下さい。

7. 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないで下さい。

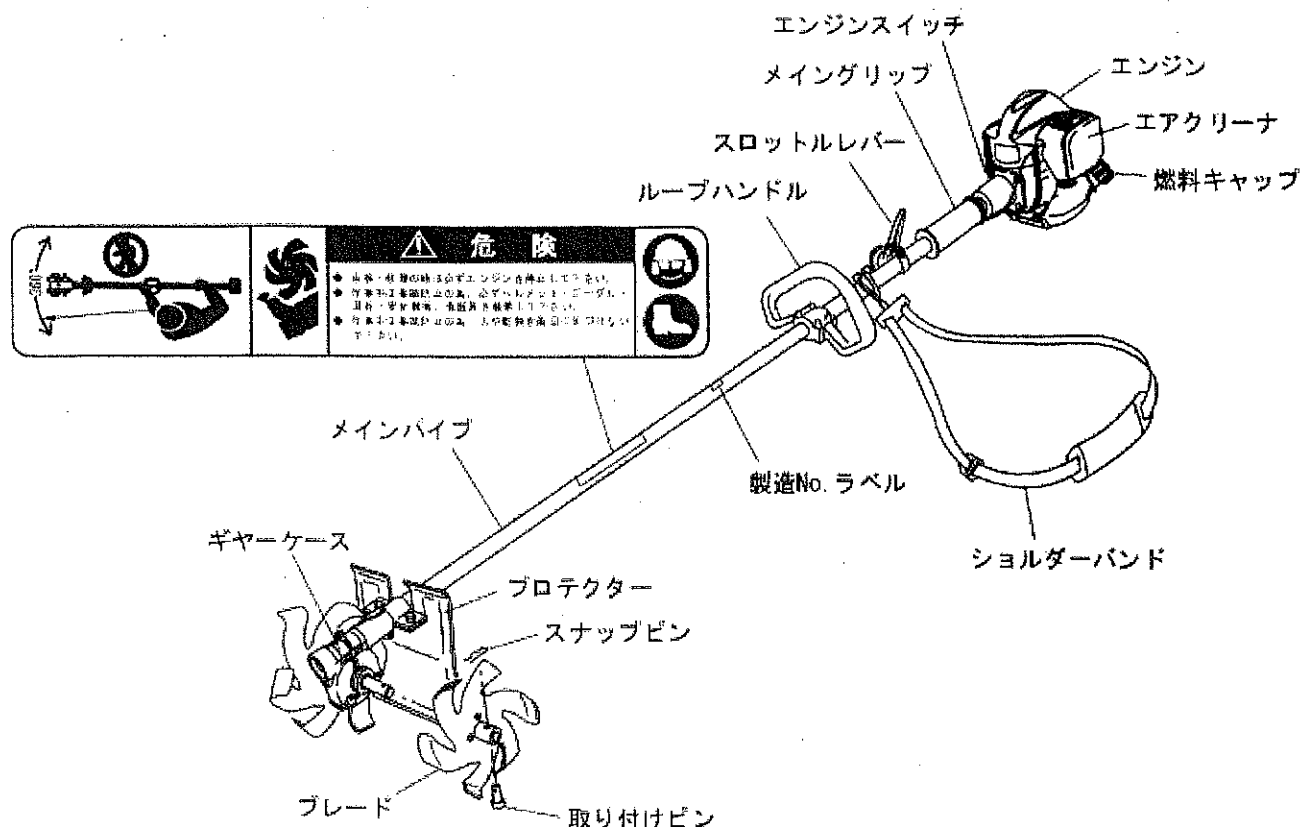
8. 夜間及び天候の悪い時は使用しないで下さい。

9. 燃料補給の際には、付近に火気のないことを確認した上で、こぼさないように行って下さい。
こぼした時は、十分に拭き取ってください。

10. 本機のバランスを保つ事ができない足場の悪い作業現場では、作業しないで下さい。

11. 使用後は、お子様の手の届かない、鍵のかかる所に保管して下さい。

2. 各部の名称及び危険・警告ラベル貼付位置



3. 仕様

型	式	OC-271
エンジン	エンジン型式	TJ27-DX
	エンジン形式	空冷2サイクルエンジン
	総排気量 (cm ³)	26.3
	最大出力 (kW(PS)/rpm)	1.2 (1.6) /7000
	燃料タンク容量(ℓ)	0.6
	使用燃料	混合ガソリン (50 : 1)
	気化器	ダイヤフラム式
	点火方式	電子点火
ブレード	点火プラグ	NGK BPM6A 相当
	直径 (mm)	200
	歯数 (枚)	6
トランスミッション	回転数 (rpm)	約 143 (エンジン回転数 7000rpm 時)
	クラッチ	乾式自動遠心クラッチ
	減速装置	ウォームギヤ
	潤滑方式	グリース
装備寸法 (L×W×H)		1850×210×280
装備重量 (kg)		約 6.4
付属品		六角レンチ 4B/5B (各 1) スパナ (1) プラグレンチ兼ドライバー (1) ケーブルバンド (1) 取扱説明書 (1) エンジン取扱説明書 (1)

※本仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。

4. 組立

▲ 注意

・開梱・組立作業は、必ず、けが防止の為、安全靴・手袋を着用して下さい。

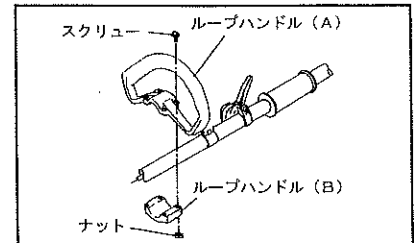
1) ループハンドルの取り付け

▲ 警告

・作業者の安全確保のために必ず各部品は確実に取り付けて、いかなる部品も取り外して作業しないで下さい。

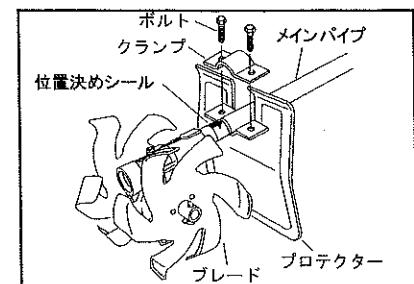
ループハンドルを作業者の身体・作業状況に応じた位置に取り付けて下さい。

- (1) ループハンドル (A) (B) でメインパイプを挟み込み、4本のスクリューとナットで確実に締め付けて下さい。



2) プロテクターの取り付け

- (1) プロテクターをメインパイプの位置決めシールの位置に合わせクランプでメインパイプを挟み、2本のボルトで確実に締め付け固定して下さい。

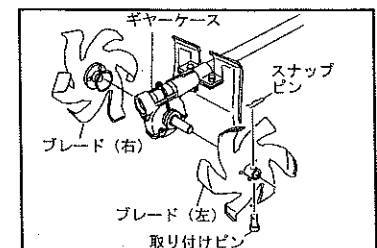
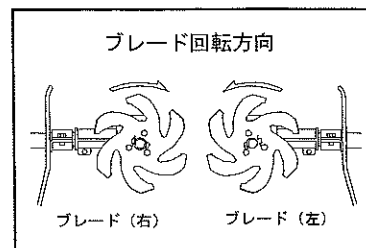


3) ブレードの取り付け

▲ 注意

・ブレードは、右・左がありますので取り付けには注意して下さい。
逆に取り付けられると性能を十分に発揮できないばかりかギヤケース内の部品を損傷するおそれがあります。

- (1) ブレード (右) をギヤケース出力軸 (右側) に差し込みます。
- (2) ブレードと出力軸の穴を合わせ、取り付けピンを差し込み、スナップピンで固定します。
- (3) ブレード (左) も同様に取り付けます。

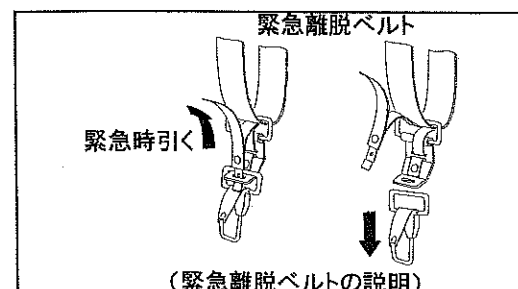
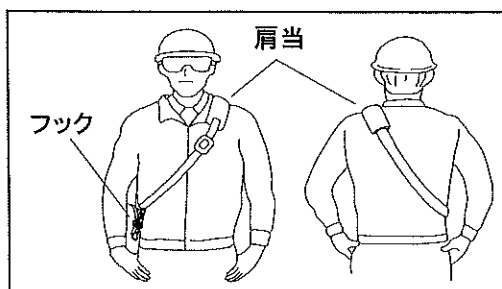


4) ハンガーとショルダーバンドの調整

- (1) ショルダーバンドはフックが右腰に、肩当が左肩にくるように掛けて下さい。
- (2) ショルダーバンドのフックをハンガーに掛け、身体に応じてバンドの長さを調節して下さい。

▲ 危険

・緊急時の場合は緊急離脱ベルトを上引き本機を素早く身体から離して下さい。



5. エンジン始動前の点検

警告

・点検は、安定した場所で必ずエンジンスイッチをOFF側にし、エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外して行って下さい。

注意

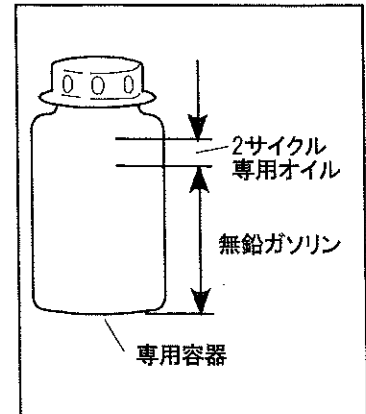
・2サイクルエンジンですので、燃料は無鉛ガソリン50に対し、2サイクル専用オイル1の割合で混合した燃料を使用して下さい。

1) 燃料

- ・燃料は2サイクル専用オイル混合ガソリンを必ず使用して下さい。
- ・混合比を間違えると、エンジン焼き付きの恐れがあります。

2) 燃料混合

- ・きれいなキャップ付容器に2サイクル専用オイル20mlに対して、無鉛ガソリン1ℓを入れて、よく振って混ぜ合わせて下さい。
- ・容器が汚れていたり、混合比が不相当ですとエンジン不調の原因となります。
- ・購入約2～3ヶ月経過後のガソリンもエンジン不調の原因となりますので使用しないで下さい。

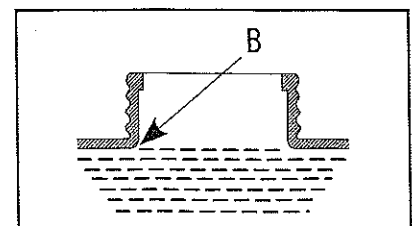


3) 燃料給油

警告

1. タバコ等周囲に火気がないことを確認のうえ行って下さい。
2. 必ずエンジンを停止し、完全に冷えたことを確かめてから行って下さい。
3. こぼさないように行って下さい。 万一、こぼれた場合は完全に拭き取り、乾かしてからエンジンを始動して下さい。
4. 混合ガソリンは購入後約2～3ヶ月以上経過したものや異物を混合されているようなものはご使用にならないで下さい。エンジン不調の原因となります。作業に消費する量だけ燃料混合して下さい。
5. 給油後は、燃料タンクのキャップを確実に締め付けて下さい。
6. 粗悪ガソリンをご使用の場合における故障、クレームにつきましては保証対象外となりますのでご注意ください。

- (1) 燃料キャップを外し、注油口の口元より少なめに補給します。
- (2) 燃料補給時はこぼさないように行って下さい。
万が一こぼれた場合は完全に拭き取って下さい。
Bまで補給後、燃料キャップを確実に締め付けて下さい。



4) 各部の締め付けの点検

警告

・各部のネジ類の脱落や緩みがないか、点検して下さい。
締め忘れ、脱落があるまま使用されますと、故障の原因となるばかりでなく重大な人身事故をまねきます。

- (1) 各部のボルト、ネジ類に脱落や緩みがないか点検し、脱落がある場合は、本機指定の純正部品を取り付け確実に締め付けて下さい。

6. エンジンの始動・停止



警告

・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないで下さい。一酸化炭素によるガス中毒になる恐れがあります。

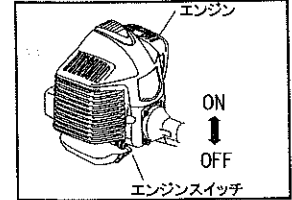


注意

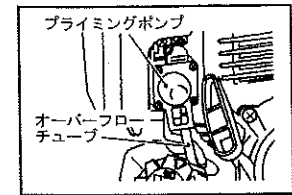
・エンジンの取扱いについては、別紙のエンジン取扱説明書を必ずお読み下さい。

1) 始動

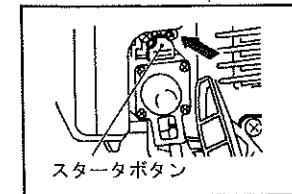
- (1) 本機を始動される時はブレードが地面に接地しないように安定した場所で行って下さい。
- (2) エンジンスイッチを“ON”側にします。
- (3) スロットルレバーを低速回転側に一杯閉じた位置にする。



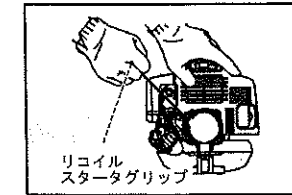
- (4) プライミング操作を行う。
キャブレタのプライミングポンプをオーバーフローチューブから燃料が流れ出るまで指でゆっくり数回押して下さい。



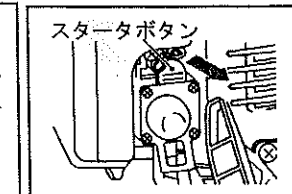
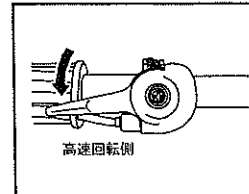
- (5) キャブレタのスタータボタンを指で“カチッ”と感触があるまで押し込み、“始動”の位置にする。
 - ・スタータボタンが押し込めない場合はスロットルレバーが一杯に閉じられていることを確認して下さい。
 - ・酷暑時、エンジンが暖まっている時はスタートボタンの操作は不要です。



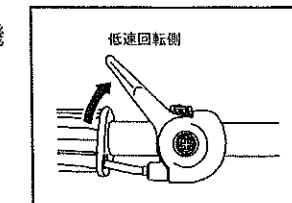
- (5) リコイルスタータグリップを素早く引張ります。(リコイルスタータは引き力を低くした構造なので軽い力で引けます。)
 - ※ロープは全部引ききらないで下さい。またロープは静かに戻して下さい。



- (6) エンジンが始動したら、スロットルレバーを高速回転側へ少し回してスタータボタンを“運転”の位置にします。
 - ・スタータボタンはスロットルレバーを高速回転側へ少し回すと自動的に“運転”の位置になります。

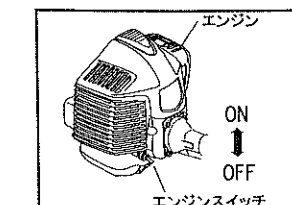
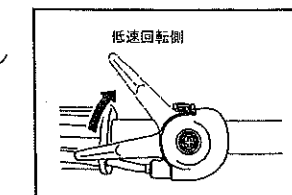


- (7) スロットルレバーを低速側に戻しエンジンをアイドリング状態で約3分間、暖機運転を行ってからご使用下さい。
 - ※エンジンの始動要領の詳細については、エンジン取扱説明書をお読み下さい。



2) 停止

- (1) スロットルレバーを低速側に戻しエンジンをアイドリング状態で約1分間運転して下さい。
- (2) エンジンスイッチを“OFF”側にして下さい。



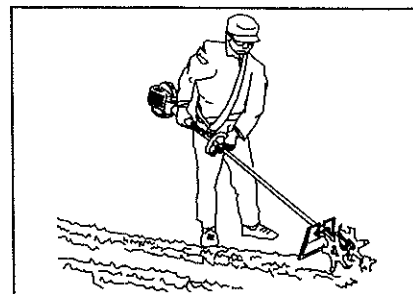
7. 作業操作方法

▲ 警告

・次の作業は必ずエンジンスイッチをOFF側にし、エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外してから行って下さい。

- ・ブレードの点検・交換時やブレード付近の巻き付き物（草、布、ビニール、針金等）を取り除く時
- ・燃料の給油時
- ・各部の組立、調整時

- (1) エンジン始動要領に従ってエンジンを始動させて下さい。
エンジンが暖まっていない場合は、エンジン始動後に必ず約3分間の暖機運転を行って下さい。
- (2) ショルダーバンドをフックが右腰に、肩当が左肩にくるように掛けて下さい。
- (3) ショルダーバンドのフックをハンガーに掛けて下さい。
- (4) 右手でメイングリップ、左手でループハンドルを握ります。
- (5) ブレード側を地面より少し浮かし、スロットルレバーを高速回転側に回してエンジン回転を上昇させます。
- (6) エンジン回転が一定になれば、ブレードを地面に着けループハンドルを軽く押さえるように本機を前後に動かしながら作業します。
 - ・耕うん作業は、能率よく作業される場合は前進で、より深く耕す場合は後進で行って下さい。
- (7) 作業時にエンジンの回転が下がって作業ができない場合があります。この場合は次の方法で作業を行って下さい。
 - ・ブレードを浮かして回転の回復後、再度作業を行う。
 - ・耕うん深さを浅くして作業を行う。



8. 点検・整備・調整

▲ 警告

・各点検・整備・調整は事故防止の為、必ず行って下さい。
・必ずエンジンスイッチをOFF側にし、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから抜いてから点検・整備・調整を行って下さい。

点検項目	作業時間		作業毎	20時間 作業毎	50時間 作業毎
	点検	清掃			
エアクリーナ	点検		○		
	清掃			※1 ○	
ブレード ブレードボルト	点検		○		
	給油			※2 ○	
各部のボルト・ナット	点検		○		
点火プラグ	点検				○
清掃				○	
燃料フィルター（ろ過網） 燃料タンク	清掃			○	
燃料ホース	点検				○

（但し本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認して下さい。）

※1 特にホコリの多い場所で使用した場合、より頻繁に行って下さい。

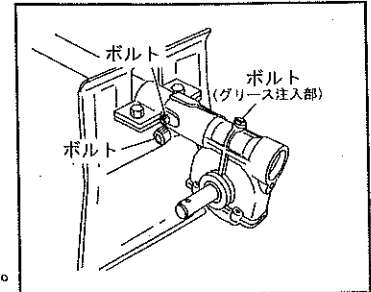
※2 初回のみ使用5時間後に交換し、その後定期給油して下さい。また、使用しない場合でも半年に1度交換して下さい。

▲ 注意

- ・本機の修理は、必ずお買い求めの販売店へお申し付け下さい。
本機に異常を感じた時は、ただちに作業を中止して下さい。
当社指定のサービスマン以外、取扱説明書の説明以外の分解修理及び改造は行わないで下さい。
- ・ゴールデンスター純正部品、付属品を使用して下さい。
本機指定の純正部品以外、使用しないで下さい。

1) グリースの補給 (ギヤケース)

- (1) ボルト (M5、1本)、及びボルト (M6、1本) を緩め、ギヤケースをメインパイプから取り外して下さい。
- (2) グリース注入部のボルト (M6、1本) を取り外し、ボルト穴からグリースをグリースガンにて注入します。この時、メインパイプ挿入穴の奥に見えるベアリングよりグリースが出てくるのを確認して下さい。
グリースは市販品リチウム系グリース、ちょう度 No2 以上をご使用下さい。



*推奨グリース 日本グリース ニグエース K-2

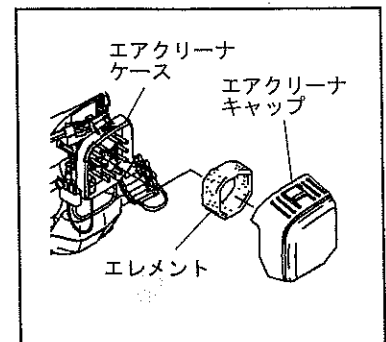
2) エアクリーナの点検・清掃

▲ 注意

- ・埃の多い所で使用した場合の清掃は、1日1回または10時間毎に行ってください。
- ・エアクリーナあるいは部品を外したままでエンジンを運転するとエンジン内部が早く磨耗したり破損したりします。

エアクリーナが目詰まりをおこすと、エンジン出力、回転の不足や燃料消費が多くなりますので、定期的に点検・清掃をするようにして下さい。

- (1) エアクリーナキャップとエアクリーナケースのはめ合わせ箇所を下方向に押し下げてエアクリーナキャップを開ける。
- (2) エアクリーナケースから取り外したエレメントは洗浄剤と水で洗ってから、十分に乾燥させる。
- (3) エアクリーナケースにエレメント、そしてエアクリーナキャップの順に確実に再組み付けする。

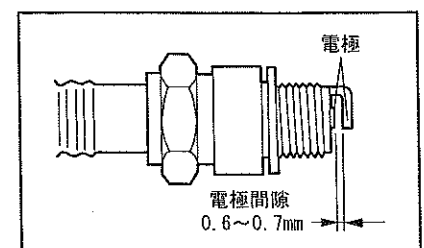


3) 点火プラグの清掃

▲ 警告

- ・電極が汚れたり、電極の隙間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になり、エンジン不調の原因となります。
- ・点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行って下さい。
- ・点火プラグの取り付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、はじめは指で軽くねじ込み (5~6山)、次ぎにプラグレンチで確実に締め付けて下さい。

- ・点火プラグキャップを点火プラグより外し、プラグレンチでエンジンより取り外します。
- ・点火プラグに付着したカーボン等をプラグクリーナ、もしくは、ワイヤーブラシ等で落として下さい。
- ・電極隙間を0.6~0.7mmに調整します。

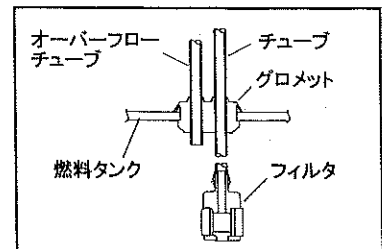


4) 燃料フィルターの清掃

▲ 警告

・周囲は火気厳禁にして下さい。

燃料タンク内の燃料パイプ先端についている燃料フィルターをパイプから引抜き、洗浄します。
尚、燃料フィルターの汚れがひどいものに関しては、交換して下さい。



5) 耕うんブレードの点検・交換

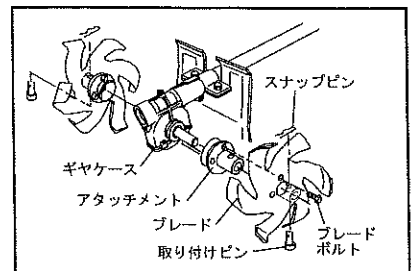
▲ 危険

・耕うんブレードの点検・交換は、必ずエンジンスイッチをOFF側にして、エンジン回転を止め、点火プラグキャップを点火プラグより外し、耕うんブレードの回転が停止してから行って下さい。

▲ 警告

・作業前に、必ず耕うんブレード、ブレードボルト、取り付けピン、スナップピンを点検し、“割れ”“曲がり”“摩耗”等異常があれば、新品と交換して下さい。
・耕うんブレード・ブレードボルト等交換部品は、必ず、ゴールデンスター純正部品をご使用下さい。

- (1) エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、けが防止の為、革手袋・安全靴・ヘルメットを着用して下さい。
- (2) 耕うんブレードはアタッチメントにボルトでしっかりと取り付けます。
- (3) 耕うんブレードを取り付けたアタッチメントをシャフトに差し込み、セット穴を合わせて取り付けピンとスナップピンで固定します。耕うんブレードの取り付けの際は方向(左右対称)に注意して行って下さい。
- (4) 耕うんブレードの取り外しは、取り付けの逆の順序で行って下さい。



6) 燃料パイプの交換

▲ 警告

・使用頻度に関わらず、燃料パイプは1年で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。尚、点検時漏れ等のあるものは即交換して下さい。

9. 長期間保管する場合

▲ 警告

・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・ガソリンを抜くときは、換気のよい場所で行い、火気を絶対に近づけないで下さい。
・ガソリンはこぼさないように抜いて下さい。

- (1) 下記の手順で燃料を抜きます。
 - ・燃料タンクの燃料注入口より抜きます。
 - ・気化器内の燃料はプライミングポンプを押して抜いて下さい。
- (2) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検し、緩んでいましたら確実に締め付けて下さい。
- (3) 点火プラグを外し、エンジンオイルを約0.5ml注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2~3回引き、点火プラグを締め付けて下さい。
- (4) エアクリーナを清掃して下さい。
- (5) さびやすい部品にグリースかエンジンオイルを塗布して下さい。
- (6) 本機及びエンジンに付着したゴミ等はきれいに清掃して下さい。
- (7) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- (8) 子どもの手がとどかない鍵のかかる場所に保管して下さい。

10. 本機の異常と対策

本機に異常があれば、下表より原因を探り適切な対策を施して下さい。

状 態	原 因	対 策
エンジンが始動しない。	①燃料がない。	燃料を補給する。
	②エンジンスイッチが“OFF”の位置になっている。	エンジンスイッチを“ON”の位置にする。
	③点火プラグから火花がでない。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
	④エアクリーナの詰まり。	エレメントの清掃。
	⑤オーバーチョーク。	スロットルレバーを低速側に戻し、2～3回コイルスタータノブを引く。
エンジンの出力不足及び回転不安定。	①ブレードとギヤケース部に異物が巻き込まれている。	異物を取り除く。
	②燃料系の詰まり。	清掃する。
	③エアクリーナの詰まり。	エレメントの清掃もしくは交換。
	④点火プラグの汚れ。	点火プラグの清掃・調整もしくは交換。
エンジンがオーバーヒートしている。	①冷却空気取り入れ口やシリンダーファン部にゴミが付着している。	清掃する。
	②点火プラグ不良。	交換する。
	③エアクリーナの詰まり。	清掃する。
本機が異常振動する。	①ブレードが破損、もしくは、曲がっている。	交換する。
	②ギヤケースもしくはエンジンを取り付けているボルトが緩んでいる。	ボルトを確実に締め付ける。

※表は簡単な異常に対する対策しか書いていませんので、わからない点や、複雑な異常はお買い上げいただいた販売店に相談して下さい。



製造番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ 株式会社

3696-0709Z